

[参考事項]

新技術名：アスパラガス斑点病菌のアゾキシストロビン剤に対する感受性の低下  
(平成 27 年)

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当  
担当者 藤井直哉・斎藤隆明 他 1 名

[要約]

県内のアスパラガス栽培圃場から分離したアスパラガス斑点病菌 (*Stemphylium botryosum*) はアゾキシストロビン剤に対して感受性の低下が広く認められる。

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

アスパラガス斑点病 (図 1) は多発すると早期落葉し、株の衰弱を引き起こす。本病は登録薬剤が少なく、生産地では耐性菌出現のリスクが高い QoI 剤であるアゾキシストロビン剤の複数回散布が行われている事例があるが、感受性の低下が懸念されている。そこで、本試験では同剤に対するアスパラガス斑点病菌の感受性の検定を行う。

[技術の内容・特徴]

1. 県内 35 地点のアスパラガス栽培ほ場から採集したアスパラガス斑点病菌 62 菌株について、アゾキシストロビン剤 (商品名：アミスター20 フロアブル) に対する感受性を検定したところ、菌株は MIC (最小生育阻止濃度) 値が 25ppm 以下と 800ppm 以上の 2 群に分かれる。800ppm 以上の菌群に含まれる 26 菌株はアゾキシストロビン剤に対する感受性低下菌と考えられる (図 2)。
2. 感受性低下菌の検出地点は県内広く確認されているが、感受性低下菌割合は地域差が認められる (表 1)。
3. アスパラガス斑点病菌のアゾキシストロビン剤に対する感受性の低下は国内では未報告である。

[成果の活用上の留意点]

1. アゾキシストロビン剤 (商品名：アミスター20 フロアブル) と同系統の薬剤であるクレソキシムメチル剤 (商品名：ストロビーフロアブル) で、散布後に効果の低下が見られる場合は異なる系統の薬剤で防除を行う。
2. 防除薬剤の選択にあたっては、最新の秋田県農作物病害虫・雑草防除基準を参照する。
3. MIC とは菌の生育を阻止するために必要な薬剤の最小濃度を示す。

[具体的なデータ等]



図1 アスパラガス斑点病菌の病斑

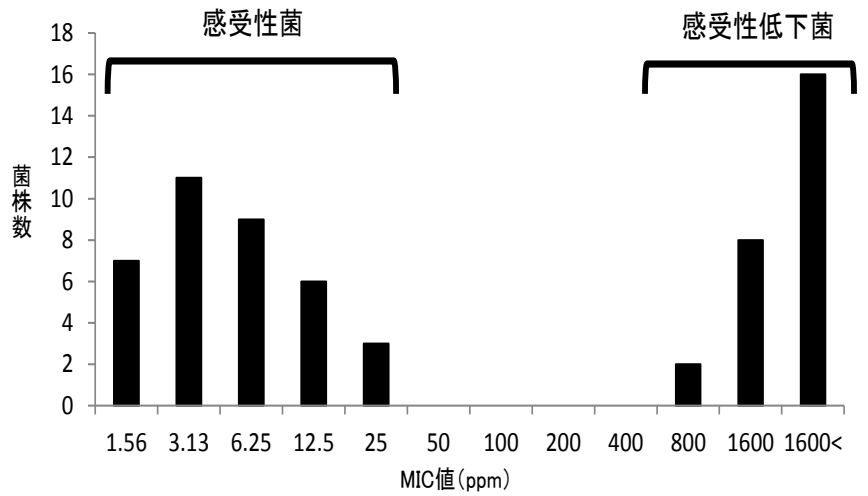


図2 県内で採集したアスパラガス斑点病菌のアゾキシストロビン剤に対する感受性の分布

表1 県内で採集・分離したアスパラガス斑点病分離菌株のアゾキシストロビン剤に対する感受性

地域 <sup>1)</sup>	検定地点数	感受性低下菌 検出地点数	検定菌株数	菌株数		感受性低下菌 検出地点率(%)	感受性低下 菌割合(%)
				感受性菌	感受性低下菌		
北秋田	10	7	15	5	10	70.0	66.7
秋田	2	1	4	2	2	50.0	50.0
由利	12	3	23	17	6	25.0	26.1
仙北	4	2	10 <sup>2)</sup>	8	2	50.0	20.0
平鹿	3	1	4	1	3	33.3	75.0
雄勝	4	2	6	3	3	50.0	50.0
合計	35	16	62	36	26	45.7	41.9

1) 各地域振興局管内

2) 2014年に農業メーカーが検定した2菌株を含む。

[発表論文等]

なし